

# 反戦スト弾圧に司法が加担！

## 3/14開示公判で京都地裁が 法廷に警察導入し傍聴人を排除！

# 京都地裁は直ちに 6学生を釈放しろ！

## 6学生釈放要求署名にご協力を！（3/15現在1506筆）

### 全員退廷 ありえない不当裁判！

3月14日、京大反戦ストライキ弾圧によって不当逮捕されている6人の仲間の勾留理由開示公判が行われた。2回あるうちの1回目の開示公判で京都簡易裁判所上垣猛裁判官は、傍聴者全員の退廷を命じ、数十人の京都府警を法廷に入れて傍聴者を暴力的に排除する暴挙を行った。

傍聴者を全員退廷にして行われる勾留理由開示公判。こんなものが裁判とよべるのか!? 6人の即時釈放を求める京大生や全国学生の思いに、裁判所は国家権力と一体化した暴力で応えたのである。

京都地裁の職員が総動員され、傍聴者を取り押さえる京都府警を先導し、支援者を監視する姿は裁判所の戦争協力そのものであった。

開示公判当日に本来いてはならない警視庁公安部が裁判所内を闊歩し、京都府警が裁判官の全員退廷命令の直後に現れたことを見ても今回の暴挙が組織的に策略され

たものであることは明らかである。

国家権力と一体化して6人を勾留し続ける京都地裁を1秒たりとも許すことはできない！ 上垣猛裁判官、辻秀樹裁判官（6人の逮捕状を出し、勾留延長を行った張本人）は、直ちに6人を釈放しろ！



裁判所の中から学生の街頭宣伝を妨害する公安警察

# 全学連

## 全日本学生自治会総連合（斎藤郁真委員長）

03-3651-4861 mail\_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp



全員退廷の直後から裁判所を徹底弾劾!

## 裁かれるべきは京都地裁の方だ!

全員退廷の命令を出した上垣猛裁判官の訴訟指揮は完全に不当なものである。

上垣猛裁判官は、開示公判で6人を勾留する理由をまともに示せず、「(6人が)捜査員に協力しない」ことを勾留の理由に挙げた。これに対して、正当な理由もなく6人を勾留していることや被告人の黙秘権を否定する発言に抗議の声があがった。

当然のごとくあがる抗議の声に耐え切れず、追い詰められた上垣裁判官は「何を言ってるか聞こえない」と言って全員退廷の命令を出し、京都府警を法廷に入れたのである。

ここに表れていることは、裁判所の凶暴性とは裏腹に京大反戦ストライキ弾圧の正当性を全く語るができない追い詰められた姿だ。

開示公判で傍聴席から裁判官に「犯罪者はおまえの方だ!」という弾劾の声があがったが全くその通りである。

安倍政権による安保法制の制定や大学の戦争動員の現実に対して反戦ストライキで闘った京大同学会の闘いは、圧倒的正義であり、誰も裁くことはできない。

逆に、戦前の京都学連事件や京大滝川事件をくり返すように国家権力の学生運動弾圧に加担している京都地裁こそ犯罪者として裁かれるべき存在だ!

## 奪還署名1274筆を裁判所に提出

開示公判当日、全国で集めた6人の釈放を求める署名1274筆を京都地裁に提出。許しがたいことに、裁判所職員は「受けとらない」としてきましたが、全国の怒りを体現して全員で徹底抗議し、受け取らせました。



最後に裁判所内で6人奪還に向けた団結ガンバローを行った

京大反戦ストライキの正義性と共に、今回の弾圧に怒って続々と学生・労働者が立ち上がっていることが最も京都地裁を追い詰めている。

全員退廷の直後にも裁判所前で不当性を訴え、通りがかった女性がすぐさま署名とカンパで支持を表明してくれた。その光景を目の当たりにした京都地裁は2回目の開示公判で誰一人退廷にすることができなかった。

国家権力の今回の弾圧における反戦スト潰しという思惑は完全に破産している。京大生は、今回の弾圧を通していま一度大学とは何かという議論が始まり、3・13京都市内デモ、開示公判には多くの京大生が参加した。追い詰められているのは国家権力・京都地裁のほうだ!

6学生釈放の署名をさらに集め、3月17日の第二波京都市内デモを打ち抜き6学生の釈放を勝ち取ろう!



## 6学生を釈放しろ! 第2波 京都市内デモ

3月17日 (木)

18:30 三条河原に集合

19:00 デモ出発

